

168 急性心筋梗塞の急性期salvage心筋の評価における糖インシュリン負荷(GIK)Tl心筋SPECTの有用性 - 慢性期心筋血流シンチとの比較から -

外山卓二, 星崎 洋, 小板橋紀通, 直田匡彦,
中津川昌利, 磯部直樹, 大島 茂, 谷口興一
(群馬県立循環器病センター)

再灌流療法に成功した急性心筋梗塞15例に対し慢性期(3-5カ月)心筋血流シンチ所見(F-up)をsalvage心筋量と仮定し, 急性期施行の安静時TlとGIK-Tlの早期(E),後期(D)像を比較した. SPECT20区域の4段階uptake score(US;3=normal-0=defect)でTc-PYP集積範囲(梗塞範囲)の合計をRUSとし, 各急性期RUS/RUS(F-up)×100(%)をsalvage心筋の急性期予測値(%)とした. GIK(E)の86±30%がTlの57±22%およびGIK(D)62±27%より有意(p<0.01)に高値であった. 急性期salvage心筋の評価はGIK-Tl(E)が有用と考えられた.